

大災害への対応力の強化

ハーバード大学ハウィット博士講演会



写真提供：陸上自衛隊

日時：2015年7月16日(木) 16:00～18:30 (開場 15:30)

場所：岩手大学工学部キャンパス内 復興祈念銀河ホール

1995年の阪神・淡路大震災以降、日本は災害対応において多くの改革に取り組んできたが、そのほとんどは、緊急事態における命令指揮とその準備を中央政府に集約させるものであった。だが、2011.3.11の三大災害（地震・津波・原発事故）と諸外国での「広域巨大災害」の類似の経験に照らすと、かかる中央集権への努力は理にかなっていたのだろうか？本講演では、巨大災害の複合的場面においては、現地対応者による「情報収集能力のある自律分散型適応構造」への依存度が急激に高まること、そしてそれと中央集権的対応能力機能とのバランスについて論じる。

プログラム

- 第1部 講演「大災害への対応力の強化
— 3.11 東日本大震災を大局的に見る—
Enhancing Disaster Response Capacity:
Perspectives on the 3.11 Disasters

第2部 質疑応答・意見交換

使用言語：英語（日本語逐次通訳有り）

対象：どなたでも（定員120名）、入場料無料、事前申込不要

主催（お問い合わせ）：岩手大学地域防災研究センター

〒020-8551 岩手県盛岡市上田4-3-5

Tel/Fax：019-621-6448 E-mail：rcrdmf@iwate-u.ac.jp



アーノルド・ハウィット博士

Dr. Arnold M. Howitt

ハーバード大学ケネディ政治大学院
アッシュセンター所長、クライシス・
リーダーシップ（危機管理）プログラム
主任。ハーバード大学で博士号（政治
学）を取得。これまで、行政機関、各
種民間団体等の防災・危機管理および
災害復興に関する研究、防災教育プロ
グラムの開発、そして各国代表等のエ
グゼクティブ教育に従事。合衆国、州
政府レベルの関連諮問委員等も歴任。
著書、論文多数。

